

名古屋城（松口月城）

金鱗 燦爛 高薨に 耀く

今日 登臨 無限の 情

秀立 雲を 抜く 天守閣

金湯 不落の 此の 名城

金鱗燦爛耀高薨 今日登臨無限情
秀立抜雲天守閣 金湯不落此名城

解説 金の鱗が有名な名古屋城を詠った詩。

語釈 ※名古屋城Ⅱ徳川家康が西国大名に命じて作らせた城で、ことに天守閣は加藤清正の造営になるといわれている。薨の上の金のしやちほこが有名である。※金鱗Ⅱ金で作った鱗。※燦爛Ⅱキラキラと光り輝くさま。※高薨Ⅱ高い屋根のいらか。※登臨Ⅱ高いところに上り、下を見渡すこと。※金湯Ⅱ金城湯地の略で金属で造ったように堅固で、煮えたぎる湯が噴き出して、誰も近付けない処。

通釈 金の鱗の鱗が、キラキラと高い瓦屋根の上で輝いている。今日、此の名古屋城に上って、下界を見渡すと壮大な気分となり、何とも言えない感慨に包まれる。天守閣はまるで雲を衝かんばかりに高く聳え立っている。金属で作ったかと思われるほど堅固で何人も攻略することが不可能と言われた名城である。